

2021年01月08日 2面

文字サイズ 小 中 大 印刷 

展望 2021 - 道路舗装・6 / 大林道路・福本勝司社長 / 公共工事に注力



福本勝司社長

昨年は新型コロナウイルスの感染が拡大する中でも問題なく施工できた。だが受注は後半になるにつれて発注の先送りが生じるなど、民間で投資意欲の低下を感じた。今年も民間工事は引き続き低調に推移しそうだ。公共工事は5年間で15兆円の国土強靱化事業の延長が閣議決定されたことで堅調に推移すると予想され、インフラ整備を担う企業として注力していく。

技術開発では大学や異業種企業との連携を深める。現在の連携先は機械部品加工やさまざまな材料を扱う企業など開発する目的に合うパートナーと組んでいる。その1例としてIT系と連携することで働き方改革に資するアプリケーションの開発などにもつながり、「朝礼アプリ」を工事現場に導入することができた。また、昨年9月に新設した研究開発専用の合材プラントを活用して、舗装材料関係の研究開発を加速させる。

請負以外ではPFIなどに注力する。昨年は国土交通省中部地方整備局による電線共同溝の維持管理事業を初めてPFIとして受注した。今後も維持管理関連で民間資金を活用した事業の発注が見込まれ、積極的に参加していく。

二酸化炭素（CO₂）排出量削減といった環境への対策は急務だ。これまでに合材プラントで極力CO₂排出量の少ないガス燃料の使用、常温・中温化アスファルト合材の開発に取り組んできた。今後も環境に配慮した設備に更新していく。

記事ID : 3202101080205

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます